

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に地域住民との交流、相互理解を深めていくことを入れている。地域行事・交流会の実施。夏祭りの相互参加。神輿お休み処設置とふれあい交流	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念・認知症に係わる理念についてミーティング時に唱和し、職員一同意識を共有し実践している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設内掲示板に掲示すると共に、推進会議等の開催時に地域の方、家族の方に説明し、理解を得ている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気候の良い時は、可能な限り近所に散歩に出かけ、地域の方との会話を楽しんでいます。時々時期の野菜などを頂いてきます。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	清掃活動・廃品回収・地区運動会・餅つき大会・地域のお祭り等多種の行事に参加させていただいています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>推進会議等を活用して、地域のお年寄り・一人暮らしの高齢者に対し、どんなことができるか話し合いながら取り組んでいる。回覧板による施設紹介も行っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>月一回、全職員参加の勉強会で自己評価について話し合い、改善に向けて取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の方々との意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じて、市役所の担当課へ出向き意見交換や電話相談もしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>当施設では、権利擁護の制度を利用していたお年よりもいました。制度については理解しています。</p>	○	<p>新スタッフもいることから今後、勉強会で学ぶ機会を作って行きたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>認知症に係わる理念が、利用者を思いやり、虐待のない施設であり、職場だと考える。</p>	○	<p>虐待についてのテキストを購入し、今後職員一同で勉強会で学んでいく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し、理解を得ていると考えている。疑問があったときはいつでも相談に応じる旨伝えています。施設と利用者家族の意思疎通が一番大事だと考えている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者がスタッフに気軽に意見、不満、苦情を言える人間関係づくりを目指し、健康管理に問題がない限り、利用者の要望は聞き入れるよう努めています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時に近況報告している。また、毎月御家族にお便りで一ヶ月の様子をお知らせしています。怪我や病気の際や、緊急時にはその都度電話にて報告し、詳細説明を行っています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、ケアプラン説明時に、家族の御要望、意見を聞き対応しています。苦情相談受付ポストを事務所カウンターに設置し、対応している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回勉強会を行い、職員全員で意見交換する機会を持ち、そこで決まった事を業務に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の希望休が偏らないように、事前に希望を出してもらい業務に支障のないよう調整している。必要によっては時間外勤務、勤務変更等要望に応じて対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	働きやすい環境作りで離職を最小限に抑える努力をしている。職員の異動も必要最小限に抑えている。異動の際は、利用者混乱を与えないように配慮して行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>必要な研修に参加できるよう、業務の調整をしている。勉強会で研修の内容を発表し、職員全員が共有できるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームサービス向上委員会に参加し、他の施設での実習など行い、良い所を積極的に取り入れている。</p>	<p>○ 県GH連絡協議会主催のサービス向上委員会に参加し、各施設と、相互にスタッフを派遣しレベルアップ研修を実施している。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室を別棟へ設置し、休憩時間を業務から分離し、ゆっくり休めるように配慮している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回の賞与の時に、職員一人ひとりと話し合う時間を持ち良い所は褒め、直した方がいい所は注意もって向上できるよう努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前に施設見学をしていただき、環境や雰囲気を確認していただく。本人の不安、要望等よく聞きだす努力をしています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前に施設見学をしていただき、環境や雰囲気を見ていただく。御家族の不安、要望等よく聞きだす努力をしています。家族との意思の疎通を図っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在 グループホームでの対応でよいのか、デイサービス、小規模多機能がよいのか希望を確認し対応している。ケアマネも含めて、入所決定前に十分検討する。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学・体験利用等を行い、本人の意向を大事にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る事は手伝っていただき、料理のやり方を教えていただいたり、昔の話をしてもらったりと本人の得意分野を活かせるよう支援している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出時に、家族の協力が得られるときは同伴を依頼しています。施設行事(誕生会・夏祭り)にも可能な限り参加して頂き、また、面会時、日々の様子をお伝えし、情報の共有化を心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所前の生活状況、家族関係の情報を集め、より良い関係を継続できるよう支援してます。ケアプラン作成にはセンター方式を活用している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を出したり、外出により馴染みの場所へ訪問することも支援している。(家族の協力も得ながら)		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関わりはトラブルが起きないよう、配慮しながら見守っている。ホールの席など、トラブルが起きないよう、相性を見ながら工夫し、並び替えなどにより、仲良くすごせるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も時折連絡を取り、必要の折は相談に乗りお手伝いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人の希望、意向をアセスメントし、把握している。困難な場合は、家族の意向を交え、本人本位に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の、アセスメントで今までの生活歴など、現在までの経過を把握している。センター方式を活用している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者さん一人ひとりの現状を把握し、心身状態・有する能力の現状を把握し、職員全員が情報を共有化し、その人に合ったケアサービスの提供ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす為のケアのあり方について、本人、家族、スタッフと話し合い、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。変化が生じた場合は、本人、家族、スタッフで話し合い、現状に即した計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員で情報を共有できるよう、日々の様子、ケアの実践、結果、利用者の変化等をここに記録し、日々の支援や介護計画の見直しなどに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他地区へ小規模多機能型居宅介護施設を設置した。相互交流を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方に誕生会などの時に催し物をしていただき、利用者に楽しい時間を提供していただいている。地域の学童クラブとの交流。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入院加療など必要に応じて、ケアマネ・ドクター・家族と相談し適切なサービスが利用できるよう支援しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	過去に権利擁護を活用していた人はいたが、現在はいません。推進会議等を通じて、市役所とのパイプ役として活用させてもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族より納得が得られたかかりつけ医により、月1回定期的に受診している。緊急時、急変時はすぐ医師に連絡を取り、対応できる体制になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりその人に合った声かけ、対応を行いプライド、プライバシーを損ねる事のないよう配慮している。個人記録など個人情報は、事務所内で管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	耳の遠い人には耳元で大きな声で話しかける、分かりやすくゆっくり説明するなど、一人ひとりに合わせた対応を行い本人の意思を確認している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを理解しその人らしい生活を送れるよう支援しています。本人の体調など様子を見ながら声かけし、「今日はゆっくり休みたい」など本人の意思に沿った支援をしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装は御家族に本人の好むものを用意していただいています。最近では定期的に来る訪問美容を利用する方が殆どです。自分で髪の長さなど、好みのヘアスタイルをオーダーしています。家族の方が来て、カットして下さる人もいます。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、卵の殻むき、おはぎ作りなど出来る事はお手伝いしていただいている。一人ひとりの好みを把握し、嫌いな物は代替してお出ししている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	梅干、ふりかけ、好みの飲み物など本人の希望で購入し、希望時お出ししている。家族の差し入れなども食事に影響しないように配慮し、希望時お出ししている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その人の排泄パターンを把握し、支援している。また、一人ひとりをよく観察しトイレサインを見逃さないようにしている。その人の状態に合わせ、ポータブルトイレを使用している方もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や本人の気分に合わせて、入浴の声かけ、支援をしている。また、本人の体調、ペースに合わせて気持ちよく入れるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて、居室で休んでいただいています。夜間、気持ちよく安眠できるように適度な運動、レクリエーションなどを行っています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人に合った役割分担により、得意分野を生かした作業をすることで、生きがいある日々を過ごしている。日頃の不満、愚痴などを職員が聞く時間を持つことで、ストレス解消を図っている。天気の良い日は、散歩や買い物に出かけ気分転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる利用者は自分で管理していただき、本人とスタッフで、スーパーやファミリーショップへ出かけ、買い物をしている。管理できない人は、職員が会計しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩・畑の収穫、その時期にあった花見等、そのときに応じた外出を支援している。希望により買い物にも出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	レストランなどで外食したり、医療機関の受診のとき家族同伴で出かけ外食を楽しんだり、喫茶店でコーヒーとケーキを楽しんだりしてます。遠出の外出も計画して出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は、スタッフの見守りで自由に使用できるようになっている。手紙も本人宛に来たものは、本人にお渡ししている。希望があれば職員が、利用者が書いた手紙を出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問客はいつでも受け入れ、談話は、居室やラウンジを利用して家族や知人だけで楽しい時間を過ごせるよう配慮しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会において[身体拘束をなくす工夫]を利用して、可能な限り身体拘束ゼロを目指してとりにくんでいる。	○	勉強会にて禁止の対象となる具体的な行為について勉強していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に入出入りできる良さは理解できるが、離園の怖さを考えると玄関に施錠せざるを得ない。居室については、利用者の希望もありトラブルを防ぐ為にも、必要な時のみ施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在については、スキンシップを取りながら、できるだけ自然な形で確認している。夜間は定期的な巡視のほか、物音が聞こえた場合随時様子を見に行き安全確保に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には現金を一律保管させていただき、その他のものはその人の状況に応じて対応させていただいています。異食の危険性のある方がいる為、石鹼などは手の届かないところへ保管し必要な時にお渡ししている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	その人に合った危険防止をスタッフで話し合い、対応を統一しています。薬は内服介助前に声に出して名前、袋の色、日付を確認し誤薬を防いでいる。薬チェック表を作り、飲ませ忘れないようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	万一の場合の対応については、勉強会等を通じて周知徹底を図ってます。実際にあった事例を元に救急車の呼び方、対応の仕方を職員全員で学んでいる。	○	4月から、新スタッフも加わったので、医師を交えた勉強会を行い、利用者の急変や事故発生時の対応を学び、万一来に備えたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、春・秋に通報・避難訓練・消火訓練を実施し、利用者の非難状況を把握しています。	○	今後、地域の方々も交えて訓練を行っていききたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その人それぞれ、考えられる事故を想定し、回避する為、家族の方と共に考え、対応してます。転倒防止・異食行為防止等。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日各人の健康状況・心身の状況を把握し、ミーティングにて周知し対応の徹底を図る。必要に応じてドクターの指示も仰いでいる。毎日バイタルチェックを行い、体調の変化を見逃さない。変化を発見した場合はその都度適切な処置を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の処方箋・投薬指示書により、その薬の相互作用・副作用等を各職員が把握しており、様子観察している。変化があり、早急の対応が必要なときは、drに説明し指示をあおいでます。利用者にあった服薬支援を行っています。薬が変更になった時は、変化が見られるか様子観察している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動と水分補給の強化に努めている。施設内外での散歩を支援している。排便を促す為、必要な時は冷たい牛乳を飲んでいただいている。便秘時は水分補給を多めにしている。必要に応じて医師処方便秘薬を内服していただいている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その人に合った口腔ケアを考えて毎食後声かけしている。義歯を外しての口腔ケアができない人には、スタッフが支援している。残菌のない方でうがいや上手にできない方は、スポンジブラシで清潔を保っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状況に応じた食事量と、水分摂取量を利用者と一緒に考え決めている。水分摂取の拒否が強い方は、その方の好む飲み物で対応したり、むせやすい人はトロミをつけて飲み易くしたり、工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防の観点から、玄関・受付・調理場等にて消毒の徹底を図っている。帰園時は、手洗い・うがいを励行しています。発熱のある利用者(37.5度以上)は、居室にて食事を摂り休養していただくようお願いし、施設内感染の防止に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	鮮度の良い食材確保に努力し、生ものについては、当日仕入れを基本とし、賞味期限切れの食材があればその場で破棄している。毎夜包丁の熱湯消毒とまな板の殺菌消毒を励行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭的環境をモットーとしており、施設内外を草花で飾っている。施設にいつでも見学・相談できるよう御案内している。利用者の家族のロコミにより見学される方が多い。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・ホール・ラウンジ等、季節の花々で飾られ、季節感を感じられるよう配慮している。照明は目に優しい暖色を中心に設置し、トイレは自動点滅式になっています。暖房は床暖房により快適な温度に保たれます。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼ホールは、食事のときは決められた席となりますが、それ以外は好きな場所で過ごしていただいています。ラウンジなどは自由に使用できます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の利用方法に制約は無く、利用者と家族で荷物、箆筒、テレビ等自由に配置し、使いやすいようにそれぞれ工夫しています。花鉢や花瓶を置き、季節の花を楽しんでいる利用者もおります。家で使っていた家具を使用してる方も多いです。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の悪い時意外はホール、廊下、居室の窓を開け換気を行っている。温度調節も適温になるように常に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、ホール、トイレ等自力歩行ができるよう、手すりが設けられてあり可能な限り自力歩行を進めています。廊下を広くし車いすの人も自力走行を基本とし、体力低下に気をつけてます。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの技能に応じた役割分担により、得意分野を生かし、毎日自分の仕事として作業をし生活しています。居室には名札を着け、自分の部屋が分かるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にベンチを配置し、天気のよい日は日光浴ができたり、利用者さん同士で会話を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・リハビリにより筋力低下の防止に力を入れている。
- ・その人らしく過ごせる環境作り
- ・一人ひとりの出きる事を生かした支援
- ・体調管理に気を配り、わずかな変化もみのがさない。